国語 科 2 年

担当者　髙橋 佳子　伊藤 翔

生徒の実態

（国語）科からみた生徒の現状

授業・課題に真面目に取り組む生徒が多く、グループワークや発表に取り組む姿勢も良いが、漢字・文法などの基礎が定着していない生徒の学習意欲を高め、学習習慣をつけることが課題である。

学力調査等の課題分析

・定期考査では、問いをきちんと読まずにケアレスミスをする生徒がいる。
・「話す」「書く」分野を苦手とする生徒が多い。
・漢字や文法などの基礎が定着していないため、国語への苦手意識をもつ生徒がいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・漢字などの課題に熱心に取り組むが、定着していない生徒もいる。 ・文章を書くことに苦手意識をもち、文章をきちんと読む習慣が身についていない生徒もいる。	・漢字の小テストとまとめテストを語彙指導にも活用する。 ・短文を中心に「書く」機会を増やしていく。 ・状況を見ながら、グループワークや発表などを通じ、話し合ったり教え合ったりする場面を増やしていく。

（国語）科の目指す生徒像

学びを言語生活に活かし、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を身につけた生徒。自分の考えをもち、他の人の考えからも学ぼうとする生徒。課題に粘り強く取り組み、力を伸ばそうとする生徒。

教師の手だて

（国語）科の取り組み　[授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・漢字の小テストとまとめテストを実施する。 ・「平家物語」「百人一首」の音読・暗唱などに取り組み、古文に親しむ姿勢を育む。 ・グループワークや発表などを通じ、伝える力と聞く力の定着を図る。	・分かる・できる体験を通し、主体的に学ぶ姿勢を育てていく。 ・自己評価・相互評価の機会を設け、達成感につなげる。 ・グループワークや発表などを通じ、話し合ったり教え合ったりする場面を増やしていく。	・授業形態を工夫し、互いに学び合い、表現し合える場面を設定する。 ・問題づくりに取り組み、既習事項の理解と定着につなげる。 ・アクティブボード・タブレット端末・書画カメラ等を活用する。

数学 科 2 年

担当者　呉　賢治　高田　郁子
神田　修

生徒の実態

（数学）科からみた生徒の現状

基礎的な計算や知識については、多くの生徒が理解し操作できるようになっているが、思考した内容を伝達・表現することが未熟である。

学力調査等の課題分析

・指示された内容、授業で教授された内容の理解は良い。
・１学年の範囲では、関数分野の定着が弱い傾向にある。
・解答を出すことはできるが、その過程を示し、論理的に説明することが苦手な生徒が多い。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・意欲的に授業に参加する生徒が多い。 ・全体的に提出物等の状況は良い。また、取り組もうとする意欲をもっている。 ・発言的にも、思考的にも、受け身の姿勢が見られる。	・解き方を教えるだけでなく、その根拠も含めて理解できるような問いかけを心がける。 ・一律の課題を設定だけでなく、自分の理解度に応じて課題を選べるようにする。 ・習熟度に応じた教材や、進行状況に応じた指導を心がける。

教師の手だて

（数学）科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、問題解決の過程で、知識・技能を活用し、数学的思考を深め、自分の考えを表現できる生徒。

（数学）科の取り組み　[授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・習熟度別コースで、生徒の実態に応じた授業を展開し、基礎的・基本的な技能の定着を図る。 ・問題集への取り組みを課題とし、テストでも既習事項問題として出題する。また、テスト直しレポートなどの課題に取り組むことで理解できるまで繰り返し問題を解く習慣を身に付けさせる。	・基礎コースでは知識技能を中心に扱い、問題を解ける自信や解くことの楽しさを実感させる。 ・発展コースでは、自ら学び、グループで深めあう過程を通して表現力を高める。 ・ＩＣＴ機器等を活用し、課題のイメージを捉えやすい工夫を行う。	・授業単位ごとに確認テストを細やかに実施し、生徒の理解度を確認しながら進めていく。 ・互いの考え方や表現を共有し深めていく場面を設定する。 ・授業の振り返りシートへの記入や、その評価を適切に行うことで、生徒の授業への取り組む意識を高めさせる。

英語 科 2 年

担当者　矢野尾　真子　新井　正秀
大原　八重子

生徒の実態

（英語）科からみた生徒の現状

英語に関心や興味をもち、意欲的に取り組む生徒が多い。

学力調査等の課題分析

・１学期の定期考査において、「知識・技能」の問題では、おおむね満足がいく結果になった。
・「思考・判断・表現」の問題では、一定量を書くことには慣れてきたが、正確な英文を書くことに課題があることが分かった。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・ペアワークやグループワークなどの協同学習に意欲的である。 ・個人学習では単語や熟語の暗記のみに頼った学習方法が目立つので、覚えたことをアウトプットする学習習慣を身につけるため、ライティングノートへの取り組みを定着させる。	・ペアワークやグループワークを通し、生徒同士で学び合いができる授業を目指す。 ・授業者がファシリテーターになるよう心がける。

（英語）科の目指す生徒像

言語や文化、人々の生活への関心と共感をもち、問いを解決させる思考力を育て、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿勢を育む。
特に「話す、書く」活動を通じて、自分の考えを持ち、発信できる生徒。

教師の手だて

（英語）科の取り組み　[授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・教科書を正しく音読できるようにし、読めるようになったことを書けるように支援する。 ・ライティング活動を増やし英作文の能力を向上させる。	・答えが複数有る問題を提示し、ペアワークやグループワークで意見を共有する場面を作る。 ・ペアやグループで英語を使用する活動内容を充実させる。	・スピーチやプレゼンテーション、協同学習のプロジェクトなどを毎学期実施し、アウトプットの機会を充実させる。

社会 科 2 年

担当者　入子 彰子　花島 伸一

生徒の実態

（社会）科からみた生徒の現状

社会的事象への興味・関心が高く、様々な課題に対して意欲的に取り組み解決しようとする生徒が多い。

学力調査等の課題分析

・基本的な社会的事象の知識が確実に身についていない生徒がいる。
・さまざまな資料から読み取って考え、表現する力が不足している。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・授業に対する意欲や関心が高く、生徒の多くが楽しく授業を受け、一つ一つの作業にも丁寧に取り組む姿勢が見られる。 ・ノートの取り方や発言方法、資料の活用方法などの授業規律が確立してきた。	・板書をノートにきちんと写せない生徒や、指示を聞き取れない生徒への個別対応が必要である。 ・生徒の思考力や表現力を高める授業の工夫や新たな教材開発に取り組み、いろいろな方法で授業に変化をつける。

教師の手だて

（社会）科の目指す生徒像

基本的な知識を確実に身につけ、その知識を活用し、様々な資料を読み取り、社会的事象を多面的・多角的に考察することができる生徒。

（社会）科の取り組み　［授業改善の具体策の視点］

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・重要事項のポイントをわかりやすく示し、繰り返し発問することで、演習の成果を高め基礎基本の定着をはかる。 ・画像やプリントなどを活用し、基礎事項を確認しながら授業を進めることで理解の定着をはかる。	・学習の成果や自分の取り組みを確認するために学習カードを活用し、細かく評価することで意欲を喚起する。 ・ワークやプリントなどの日頃の取り組みをフィードバックする。	・発言の機会を増やし全員を授業に参加させ、活気があり、わかりやすい授業を目指す。 ・電子機器を活用して資料を提示し、読み取ったり考えたりする活動をいれて学びへの意欲を喚起する。

理 科 2 年

担当者　池田 太一　曽根 有紀
古川 誠

生徒の実態

（理科）からみた生徒の現状

前向きに取り組んでいる生徒が多い。
分野によって得意不得意がある。

学力調査等の課題分析

・基礎的な内容や理科用語については理解できている。
・授業中は理解できている様子が見られるが、定期考査になると間違える生徒が2割ほどいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・授業内容を理解している生徒は多いが、授業の間隔が空くと、すぐに忘れてしまう。 ・学んだことを家庭で復習する習慣が身についていない生徒が多い。 ・実験や観察は積極的に取り組むことができる。	・ＩＣＴを多く取り入れ、生徒の興味・関心を高める授業を進めていく。 ・実験や観察は、コロナ対策として、材料の変更や班を少人数にする等工夫して実施する。

（理科）の目指す生徒像

「課題」に対して豊かに発想して積極的に取り組み、論理的に予想を立てて科学的な思考のもとに検証して理解を深め、応用ができる生徒

教師の手だて

（理）科の取り組み　[授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・前時の復習を取り入れた授業を展開し、理解の定着をはかる。 ・家庭学習の定着をはかるため、問題集を個人のペースで解くように指導する。	・身近な科学的なトピックスなどを電子黒板の画像や動画を活用して紹介し、授業への関心・意欲を高める。 ・実験・観察以外にも映像や演示実験を行う。	・画像や動画、標本などを多く用い、自然現象がイメージできるようにする。 ・板書に時間を要する内容のものはプリントを配布して記入させる。

音楽 科 2 年　担当者　岩崎　泰弘

生徒の実態

（音楽）科からみた生徒の現状

落ち着いて授業に取り組むが、支援が必要な生徒も各クラスにいる。
前向きな生徒がいるので、その意欲が全体に広がるよう助言、指導を継続する。

実技テスト等の課題分析

・読譜力やリコーダーの運指は大半の生徒が理解しているが練習量の違いで演奏には差がある。
・記号の知識や理解、表現力に個人差がある。
・音楽の表現力は学年、クラスによって違う。
・実技、鑑賞すべてにおいて前向きに取り組んでいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・全体的にまじめに取り組むが、意欲には、個々に差がある。 ・できないとすぐに諦めてしまう傾向がある。 ・苦手意識が強く、思い切って声を出せない生徒が多い。 ・リーダーは徐々に育ってきている。	・自らの課題を見つけ、個々に目標を達成しようとする気持ちにさせる。 ・諦めずに自ら繰り返し練習に取り組む意欲がもてるように助言や指導の工夫を考えていく。 ・音楽の流れや言葉の意味を感じ、音楽を豊かに表現できるように助言を与えていく。

教師の手だて

（音楽）科の目指す生徒像

音楽に興味関心と自ら学ぼうという姿勢をもち、一つのものをみんなで完成させる達成感と、音楽を表現する喜びを感じることができる生徒。

（音楽）科の取り組み　[授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・繰り返し練習することでリコーダーの運指を理解し曲を仕上げる。 ・自分のパートの役割を考え、旋律の流れや美しいハーモニーと、言葉の意味を考え、音楽的に豊かな表現を目指す。	・ペア練習や２重奏などを用い、アンサンブルの楽しさと合わせることの大切さを感じさせる。 ・パートリーダーを決め、生徒自ら積極的に取り組める雰囲気作りをさせ、課題も見つけさせる。 ・できばえをしっかり示していく。	・授業内で一斉に班練習やパート練習を行い、時間を有効に使う。 ・生徒自身に目標と課題を考えさせ、それに近づくような助言を与え、少しでも完成度の高いものを目指す。 ・自信をもって声が出せるよう個別指導も行う。

美術 科 2 年

担当者　大島　秀信

生徒の実態

（美術）科からみた生徒の現状

授業に集中して意欲的に取り組もうとしている生徒が多く、全体的に取り組む姿勢の向上がみられ、自分の思いを表現する力が不足している生徒もいるが、あきらめずに積極的に制作しようと前向きに取り組んでいる。

実技テスト等の課題分析

・基礎的・基本的な内容はほぼ定着している。
・技能問題では、学んだ知識を活用し、丁寧に取り組む生徒が多い。
・作品の完成度も高く、達成感を味わい、個々に満足のいく結果を出している生徒が多い。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・基礎的な技術を理解し、豊かな発想を活かし、作品完成に向けて前向きで、制作に積極的に取り組んでいる。 ・積極的によく発言する生徒も多く、授業の雰囲気をよくしている。	・発言や質問をしやすい環境を作り、発想や構想の拡がりを図る。 ・個々の課題に適切に助言をし、感性や技能に応じた表現を楽しめる工夫をする。 ・悩み躓いている場面では、適切に助言し、支援に努める。

教師の手だて

（美術）科の目指す生徒像

基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、多種多様な表現の美しさを理解して発想を豊かにし、自分の考えや思いを工夫改善しながら表現することができる生徒。

（美術）科の取り組み　[授業改善の具体策の視点]

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・課題に応じた技法、道具の使い方を身につけさせる。 ・作品鑑賞で美術の味わい方を学習させ、潤いのある生活意識を育む。	・学習した技法、技術、発想力を活かし、造形への構想を広げる。 ・発言や質問を導き、工夫や改善の手立てを発想させる。 ・適切なアドバイスと丁寧な評価に心掛ける。	・制作の目標を明確にし、板書を工夫して本時の展開をわかりやすく示す。 ・生徒一人一人に応じた指導を行う。 ・個々の作品を取り上げ評価しながら、手本を充実させる。

保健体育 科　2 年　担当者　井上 亨　井口 京子

生徒の実態

（保健体育）科からみた生徒の現状

運動が好きな生徒が多く、様々な種目に対して意欲的に取り組み、向上心もある。昨年度より運動機会が少なく、基礎体力の向上も含めて運動機会の確保が必要。

実技テスト等の課題分析

・体を動かすことが好きな生徒が多い。
・様々な種目を通し、基礎体力や基礎的な運動スキルを身に付けて高めていく必要がある。
・お互いにアドバイスし合い、模倣し、高め合う姿勢が必要である。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・全体的に取り組む姿勢は良好であるが、個々の基礎体力の差が大きい。 ・体の動かし方や使い方が不十分な生徒が多く、基本的な体の動きや巧緻性を身につけさせたい。	・運動量を確保しつつわかりやすい説明と指示の工夫をする。 ・基本的な体の動かし方を高める内容を工夫する。 ・学習カードや資料を提示する。 ・全体、個別指導や助言をする。

（保健体育）科の目指す生徒像

運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識・技能・体力を高め、向上心や責任感、協調性や公正さをもつ、心身ともに調和のとれた生徒

教師の手だて

（　保健体育　）科の取り組み［授業改善の具体策の視点］

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・準備体操に加え補強運動を継続して行う。 ・集団行動を通し、学びあいや規範意識を高め、定着をめざす。 ・振り返りと繰り返しを徹底し、明確な課題を持たせる。	・学習の内容を理解させ、個人目標を設定させる。 ・多くのグループ活動を通じて、互いを高め合い「できる」喜びを感じさせる。	・具体的な助言を通し、個人の課題に迫れるように工夫する。 ・見本や映像を使用し、イメージをもたせ技能の習得を促す。

技術家庭 科 2 年 担当者 安尾 圭吾 飯田 沙織

生徒の実態

（技術・家庭）科からみた生徒の現状

ほとんどの生徒が、授業に真剣に取り組んでいるが、授業内容を理解したつもりになっている生徒もいる。製作・実習には意欲的になれるが、一部に集中力が長続きせず作業手順を理解できていない生徒がいる。

実技テスト等の課題分析

・基礎的、基本的な内容は定着しているが、課題を解決するために、資料活用や手段を工夫し創造する能力について、課題が見られる。
・落ち着いて授業に取り組むが、理解していない生徒がいる。また、支援の必要な生徒もいる。

授業等の課題分析

生徒の取り組み状況	教師の指導のあり方
・チャイム着席、持ち物など、授業規律は定着しているが、集中力が欠けている生徒がいる。 ・積極的な活動をしているが、理論を理解できない生徒もいる。 ・進んで発言し、積極的に授業に参加することができない生徒もいる。	・自らの課題を見つけさせ、個々に目標を達成させようとする気持ちにさせる。 ・ＩＣＴを活用し、一方的な説明ではなく、生徒が活動して「参加している」と思えるような場面を多く設ける。 ・授業内容の一つ一つを具体的にイメージできるように指導する。

（技術・家庭）科の目指す生徒像

ものづくりの基礎的な知識・技術を習得し、生活に活用できる生徒。
製作を通し、やり遂げる力や責任感、協調性を身につけた生徒。

教師の手だて

（技術・家庭）科の取り組み ［授業改善の具体策の視点］

基礎・基本の定着	学習意欲の向上	授業の工夫
・授業での発問、ワークシートや掲示物を工夫し、繰り返し取り組む姿勢を育む。 ・日常生活の中にある事例を授業で取り上げ、技術・家庭科の学習内容が、生活に関連しているという実感をもたせる。	・ＩＣＴ機器と作品見本・掲示物を効果的に活用し、基礎的な知識を効果的に理解させ、実習時間を確保し、技術・家庭科への関心・意欲を向上させる。	・グループ学習を取り入れ、互いの意見や知識を発表し、新たな気付きや発見を得られるような場面を増やす。